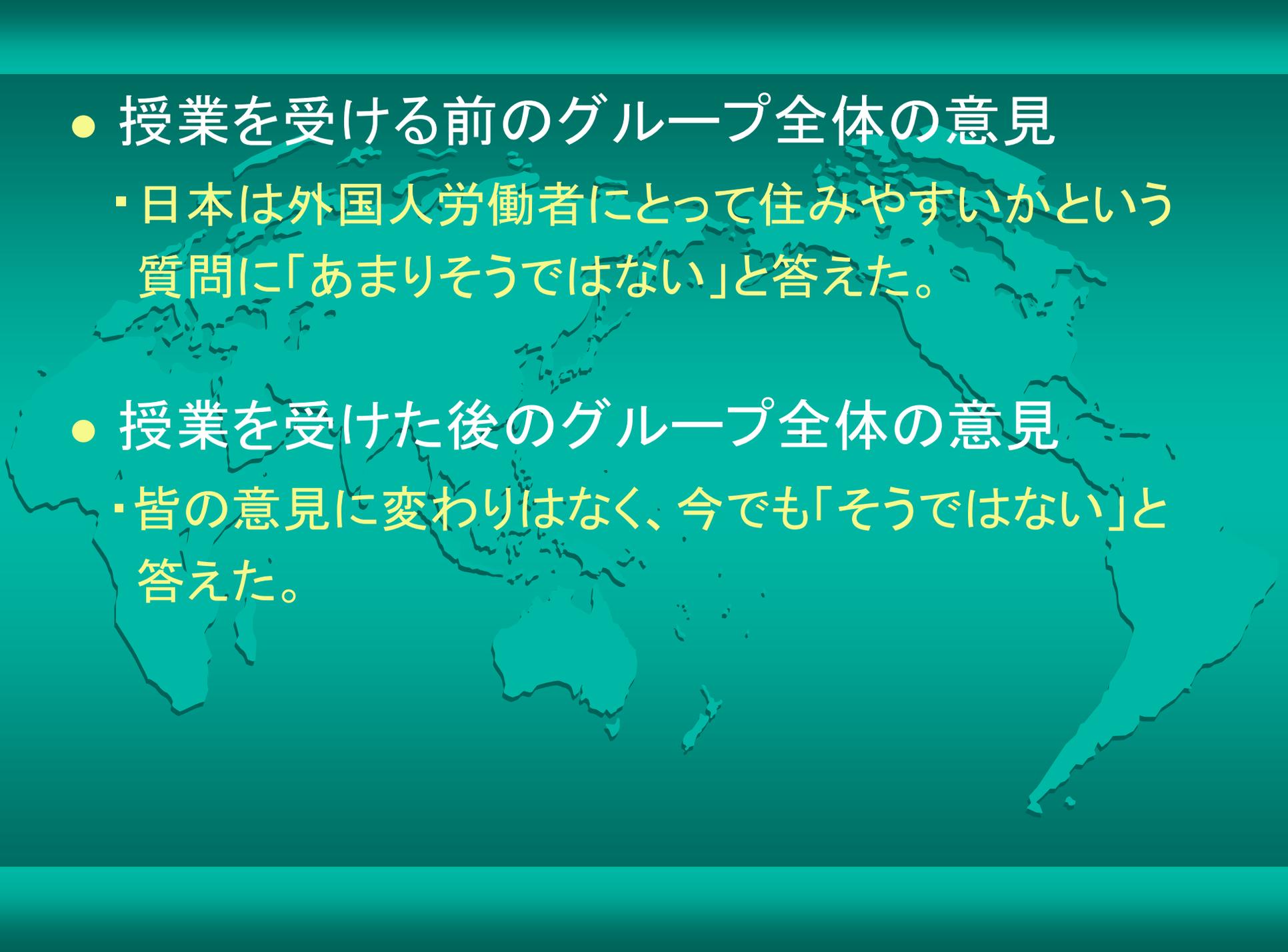




# 多言語多文化社会論入門1

＜外国人労働者にとって日本は住みやすい国であるか＞

小さな声

- 
- 授業を受ける前のグループ全体の意見
    - 日本は外国人労働者にとって住みやすいかという質問に「あまりそうではない」と答えた。
  - 授業を受けた後のグループ全体の意見
    - 皆の意見に変わりはなく、今でも「そうではない」と答えた。

## 順番の理由

ステップ2の段階では「法律のあいまいさが問題である」という意見が多かった。

しかし、教室の意見を聞き、自分たちなりに緊急性の高さの順番で並べたところ以下のようになった。



・外国人住民に対する関心の低さ

・文化への無理解

・アイデンティティーの決め付け・外国人児童への教育支援 ・国際理解教育

・労働環境改善 ・行政施策の不足 ・外国人に対する法律のあいまいさ

・外国人側の意識(国によって上下に動く)

異文化に対する関心が低い



異文化への理解ができない



アイデンティティーの決め付け、外国人児童のニーズにあった教育支援不足といった問題が起きる



日本人児童に対する国際理解教育が必要となる  
(相互理解を深めるため)



状況を理解するようになる → 労働条件の改善や法律改正といった  
ような行動に動くようになる

日本にやって来る外国人の意識も課題として挙げられる  
しかし、国によってその重要性が変わるのでは？

# きっかけを作ろう

- 大学生である私たちができることは何であろうか
  - ・授業で異文化理解教育をする  
(机上の勉強ではなく子供に強い印象を与える授業をすることで異文化に興味を持てるようにする)

- ex)
- ① 外国の料理を一緒に作る
  - ② 運動会で外国人児童や親と日本人の児童や親と一緒にできる種目をする
  - ③ 授業参観(大人にも興味を持ってもらう)
  - ④ 地元の祭りで料理店を出す